

## 1人1台端末環境を基盤とした授業改善

玉野市立荘内中学校2年

2023.12.12  
岡山県教育委員会  
教育情報化推進室

## 個別最適な学びの実現を目指す「複線型」の授業展開が生まれた

玉野市立荘内中学校は、「リーディングDXスクール事業」の指定校（全国約200校）で、1人1台端末を十全に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や、校務DXを力強く推進しています。アドバイザーには鳴門教育大学 泰山 裕 准教授を招き、同じく指定校の玉野市立荘内小学校とともに、研修や公開授業を通して、1人1台端末環境を基盤とした授業改善に取り組んでいます。

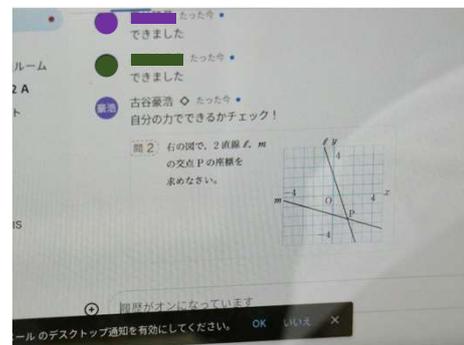
## 授業の様子（9月）2年数学「一次関数」



問題を解く途中、つまづきのヒントを得るためにChatを参照する生徒

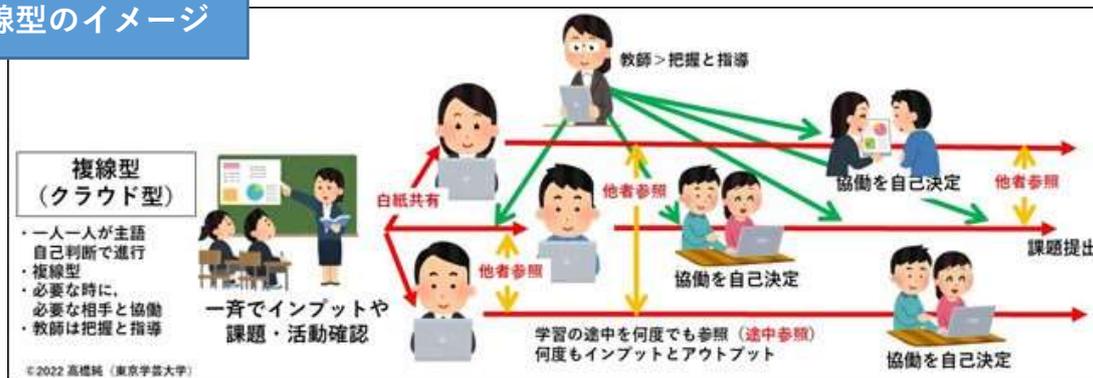


授業は複線型に展開され、各自の学び方は自己調整するよう促している



Chatは各自の学習状況や質問等の他に、教師からも発展問題が示される

## 複線型のイメージ



出典 文部科学省 StuDX Style 「GIGAスクール構想×クラウド活用」 <https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/49.html>

9月、全クラスの授業を泰山 准教授が参観し、NEXT GIGAで目指す「授業のあり方を転換し、個別最適な学びを実現する」ため、次のような助言がありました。

- ① 「～ができるようになる」の目標設定は、作業目標であり、**向上目標の設定**が必須
- ② 生徒自身で向上目標が設定できないと、困り感や「どうにかしよう」という気持ち生まれにくい
- ③ 生徒が「どうにかする」ためには、クラウド環境を活用し全員の学びを「**途中参照**」できることや、**Chatで今の状況を共有し目的に応じて自ら協働できる**環境を設定することがポイント
- ④ 「**学習の手引**」を作成して学習計画等をあらかじめクラウド上で生徒に共有する支援が、**生徒が自分の学びを最適に調整する基盤**になる（「学びを委ねる」と同義）

次号では、2か月後、更にブラッシュアップされた授業の様子をお伝えします。